

看護大学生の国家試験に対する学習意欲の向上に向けたA大学の取り組み —グループ学習を取り入れて—

田辺 洋子¹⁾ 森田 桂子¹⁾ 渡部 幸子¹⁾ 天野 勢子¹⁾ 山内 麻江¹⁾

中山 牧子¹⁾ 大澤 豊子¹⁾ 佐藤 みつ子¹⁾

了徳寺大学・健康科学部・看護学科¹⁾

要旨

看護師国家試験は、看護師を目指す学生にとって資格取得のための必須要件である。そのため、看護師に必要な専門的な知識や技術、臨地実習等、4年間にわたり過密なカリキュラムをクリアし、4年生には、国家試験に向けて受験準備を計画的に進めなければならない。学習意欲が乏しい学生に対し、合格率を上げるために、教員が一丸となってどのような取り組みをすることが最善なのか、これまで実施してきた国家試験対策を振り返り、更に充実したものにしていく必要がある。学生を対象に、国家試験対策の取り組みのひとつとして、グループ学習を取り入れ、学習意欲の向上につながったかを明らかにした。4年生の早期にガイダンスを実施し、国家試験対策の目的・グループ学習の目的については、概ね理解することができていた。グループで話し合いをしながら学習を進めた学生が約7割おり、グループ学習により意欲の向上がみられ、約6割の学生が役にたったと述べており、今後の看護師国家試験対策の学習の動機づけのきっかけづくりになった。

キーワード：看護学生 国家試験 対策指導

University A's measures to improve motivation of nursing students to study for the national examination - Introducing group study-

Yoko Tanabe¹⁾, Keiko Morita¹⁾, Sachiko Watanabe¹⁾, Seiko Amano¹⁾, Asae Yamauchi¹⁾,
Makiko Nakayama¹⁾, Toyoko Oosawa¹⁾, Mitsuko Sato¹⁾

Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Ryotokuji University¹⁾

Abstract

Students who wish to become nurses must pass the national nursing examination of Japan. To this end, students have to complete an overcrowded curriculum in four years, including specialized knowledge and skills required for nurses as well as clinical training. In the fourth year of the study, they also have to make preparations for the national nursing examination in a carefully planned strategic manner. It is necessary for the faculty of nursing universities to have an understanding of the best ways to increase the pass rate for students with poor motivation to study, and work to improve the strategies needed to prepare for the national examination by reviewing the presently employed strategies. We incorporated group study as one strategy to prepare students for the national examination, and examined whether it resulted in improved motivation to study. Students were provided guidance early in the fourth year, and they largely understood the purposes of the preparation for the national examination and group study. About 70% of the students studied through group discussions and reported that the group study improved their motivation, and about 60% of the

students reported that it was useful. The findings showed that incorporating group study created an opportunity to motivate the students in the study for their future national nursing examinations.

Keywords: nursing students, national examination, examination preparation strategy

I. 緒言

看護師国家試験は、看護師を目指す学生にとって看護師資格取得のための必須要件である。そのため、看護師に必要な専門的な知識や技術、長期間の臨地実習等、4年間にわたり過密なカリキュラムをクリアし、特に、最終学年の4年生には、看護師国家試験に向けて受験準備を計画的に進めなければならない。

近年、看護学生の特徴について、生活体験の乏しさや積極的にコミュニケーションが取れないなどと言われており、安ヶ平ら¹⁾は、「看護が目的でない学生が増加している」、「考えるプロセスより正解を求める」「読み書きや理解力の低下」「自分で目標を立てられず主体的な学習態度にかける」などの特徴を挙げている。本学の看護学生においても、通常の講義や演習、看護学実習で指導している教員や実習病院の指導者から、読解力や思考力が身についていない、状況の判断力が弱い、学習意欲が低く消極的である等の意見があがっている。

このような学習意欲が乏しい学生に対し、看護師国家試験合格率を上げるために、看護学科が一丸となってどのような取り組みをすることが最善なのか、これまで実施してきた国家試験対策を振り返り、更に充実したものにしていく必要がある。

国内の看護師国家試験対策のこれまでの報告では、看護専門学校における実践報告が大半を占めており、看護系大学における実践報告はあまりみられなかった。藤澤ら²⁾は、この背景には、看護専門学校と看護系大学の国家試験に対する取り組みの違いがあることが考えられる」と述べている。

本学では、1年次より低学年の全国模擬試験を実施し、2年次、3年次においても、徐々にレベルをあげた模擬試験に取り組ませてきている。しかし、学生の国家試験に対する危機意識が薄く、学生自ら試験結果を分析し自己課題を見つける等、積極的に取り組む姿勢が身についていない。そこで、本年度は、国家試験対策の目標として、学生が国家試験に対し意欲的に取り組めるような支援と自ら考え行動できる主体的な学習姿勢が修得できるよう年間計画を立案し、実施することとした。4年生学生に対し、2022年4月より学生のグループ編成を行い、グループごとに学修目標を立て学習計画を具体的に、しかも詳細に立案させ学習を進める。それぞれのグループでの学習成果を発表し学習共有ができる機会を設けるよう企画した。学生自身の学修計画の実施の他には、教員による専門基礎科目、看護専門科目の補講、業者による模擬試験と学習強化対策の補講、その他、個別に学生を担当し指導を行い、教員間で連携をとることとした。

II. 研究目的

グループ学習を導入したことで、学生が主体的に学ぶ姿勢が身につく国家試験に対する学習意欲の向上につながったかを、明らかにする。

III. 研究方法

1. 調査対象

A大学 看護学科4年生を対象にアンケート調査を実施した。

2. 研究方法

1) 看護師国家試験対策の概要

(1) 看護師国家試験対策のガイダンスの実施

4年生アドバイザーが、4年生初めのガイダンスにて、学生自身が年間計画を立て主体的に学ぶ姿勢を身につけさせるために、国家試験にどのように取り組むのかを自己の目標として明文化させ、年間を通じて主体的に学習を行い、看護師国家試験に向かえるようにした。

(2) グループ学習の導入

学生自身が年間計画を立て主体的に学ぶ姿勢を身につけさせるために、3年次3月に解答した業者模試「必修問題」の振り返りを実施した。2022年4月より学生のグループ編成を行い、グループごとに学修目標を立て学習計画を具体的に、詳細に立案させアドバイザーに提出をさせ助言を受けながら学習を進めた。毎週月曜日にグループの担当となった問題を国家試験出題基準と照らし合わせ、どの分野からの出題であったのか、近年の出題傾向の確認をし、その問題の解説を作成した。その後その問題の類似（作成）問題を作成し、クラスメイトに解いてもらい、更に解説を作成し、それぞれのグループでの学習成果を発表し学習共有ができる機会を設け6月中旬まで全員が問題を担当できるよう合計7回実施した。最終的に総まとめとして、学生個々に作成した類似問題を元に、100問の問題を「必修問題力試し」として実施した（表1）。

表1 看護師国家試験 対策の概要

回	日にち	主 題	内 容	次回の課題
1	4/7(木)	必修問題の見直し (3月実施済)	必修問題を見直す 4/18 ガイダンス時必修問題 A・B 解説書を持参する	必修問題見直し
2	4/18(月) 9:00~12:10	国家試験対策ガイダンス 担当問題解説・新問題準備	担当問題 担当問題分担当 配布 分析 ・出題基準と照らし合わせ ・出題傾向の確認 解説発表準備 ・解説を作成し発表用パワーポイントを準備 新問題（各自1問） 問題の選択または作成 ・担当問題の出題基準項目と同じ項目の問題を選択または自分で作成 解説発表準備 ・解説を作成し発表パワーポイントを準備	発表資料 ・担当問題解説 ・発表用 PP ・新問題と解説 PP
3	4/25(月) 9:00~12:10	担当問題解説 新問題解答・解説①	各自担当問題の解説をする。 (1人10分) 14人	
4	5/16(月) 9:00~12:10	担当問題解説 新問題解答・解説②	各自担当問題の解説をする。 (1人10分) 14人	
5	5/23(月) 9:00~12:10	担当問題解説 新問題解答・解説③	各自担当問題の解説をする。 (1人10分) 18人	
6	5/30(月) 9:00~12:10	担当問題解説 新問題解答・解説④	各自担当問題の解説をする。 (1人10分) 18人	
7	6/6(月) 9:00~12:10	担当問題解説 新問題解答・解説⑤	各自担当問題の解説をする。 (1人10分) 18人	
8	6/13(月) 9:00~12:10	担当問題解説 新問題解答・解説⑥	各自担当問題の解説をする。 (1人10分) 18人	
9	6/13(月) 9:00~12:10	必修問題力試しテスト		

2) 質問紙調査

調査は、2022年6月中旬に国家試験対策のグループ学習終了後に実施した。

調査内容は、以下の項目とした。

(1) 「看護師国家試験対策の目的は理解できましたか」とし、「よく理解できた」「まあまあ理解できた」「あまり理解できなかった」「理解できなかった」の4件法で尋ねた。

(2) 「看護師国家試験対策は、どのようにして計画をしましたか」とし、「自分で計画を立案した」「友人と計画を話し合って立案した」「教員に相談して立案した」「計画を立てなかった」の4件法で尋ねた。

(3) 「看護師国家試験対策のグループ学習についてお聞きます」とし、

①「グループでの学習内容について」自由回答とし記入してもらった。

②「グループ学習は役立ちましたか」では、4件法で尋ねた。

③「問題の解説や類似問題を作成するにはどのくらいの時間がかかりましたか」では、時間を記入してもらい、作成する際に参考にしたものを記入してもらった。

④グループ発表をしたことで「役立ったか」、「発表後振り返りを行ったか」、「積極的に学ぶことができたか」を4件法で尋ねた。

⑤グループ学習後に「学習時間は増えたのか」と「今後、国家試験の取り組みは明確になったのか」の2問について「はい」「いいえ」の2件法で尋ねた。

3. 分析方法

調査の質問項目は記述統計、自由回答式質問に関しては、カテゴリー化した。

4. 倫理的配慮

本研究は、研究者所属の倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：22-29）。

V. 結果

研究参加の同意が得られたのは対象者113名中91名、回収率は80.5%であった。

アンケートの調査結果を以下に述べる。

1. グループ学習の方法について

1) グループの学習の計画立案

「自分で計画を立案した」が56名（66.7%）、「友人と計画を話し合って立案した」が22名（26.2%）、「計画を立てなかった」は、5名（6.0%）であった（図1）。

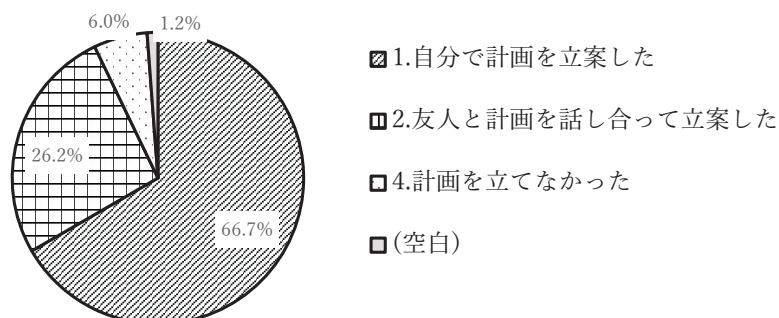


図1 看護師国家試験対策は、どのようにして計画をしましたか

2) 学習方法

6つに分類された、グループ学習実施群は、【グループで問題を分担した】24件、【グループのメンバーで話し合い、問題を作成し発表した】26件、【グループ内でペアを作り、問題を話し合いながら学習していた】2件、【グループは作ったが、グループ内で学習することは少なかった】4件であった。未実施群では、【友人と行った】4件、【グループ学習はしていない】22件であった（表2）。

表2 国家試験対策 グループ学習の方法

	学習方法	人数
グループ学習実施	グループで問題を分担した	24
	グループのメンバーで話し合い,問題を作成し発表した	26
	グループの中でペアを作り,問題を話し合いながら学習した	2
	グループは作ったが,グループ内で学習することは少なかった	4
未実施	友人と行った	3
	グループ学習はしていない	22

3) 問題の解説や類似問題を作成するための時間と教材

1時間以内が50名（59.5%）と一番多くなっていた（図2）。

問題の解説や類似問題を作成する際に参考にした資料はインターネットからの検索が多くなっていた（図3）。

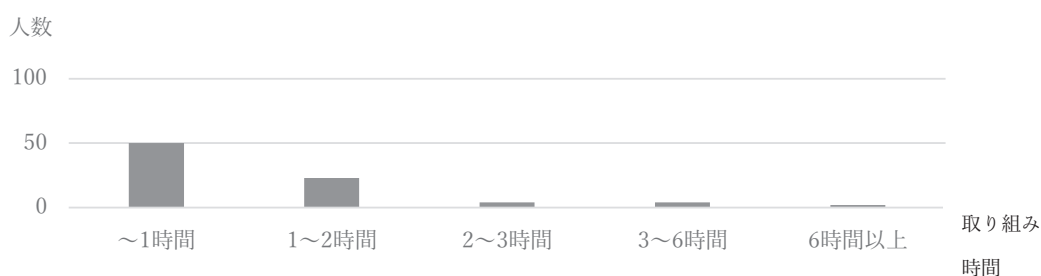


図2 問題の解説や類似問題を作成するのには,どのくらいの時間がかかりましたか

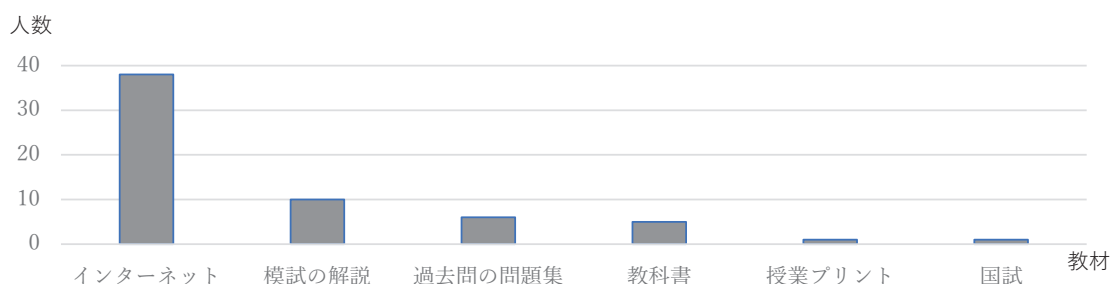


図3 問題の解説や類似問題を作成する際に参考先

4) グループ発表後の振り返り

「行った」は、32名（38.1%）, 「行わなかった」は、17名（20.0%）, 「あとでやろうと思っている」は、28名（33.3%）, 「必要ないと思っている」は、7名（8.3%）であった（図4）。

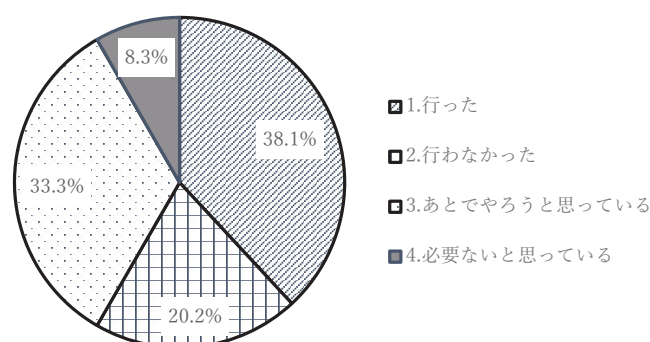


図4 看護師国家試験対策グループ発表後に振り返りを行いましたか

5) まとめ資料の利用

「利用している」が53名（63.1%）, 「利用していない」が7名（8.3%）, 「これからやろうと思っている」が19名（22.6%）, 「必要ないと思っている」が4名（4.8%）であった（図5）。

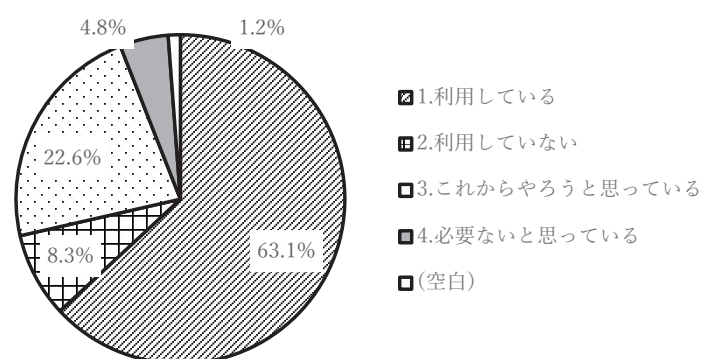


図5 まとめ資料を利用しましたか

2. グループ学習による学習意欲の向上

1) 看護師国家試験対策の目的

「よく理解できた」が36名（42.9%）, 「まあまあ理解できた」が37名（44.0%）, 「あまり理解できなかった」が3名（3.6%）, 「理解できなかった」が1名（1.2%）であった。8割強の学生が目的は理解できていた（図6）。

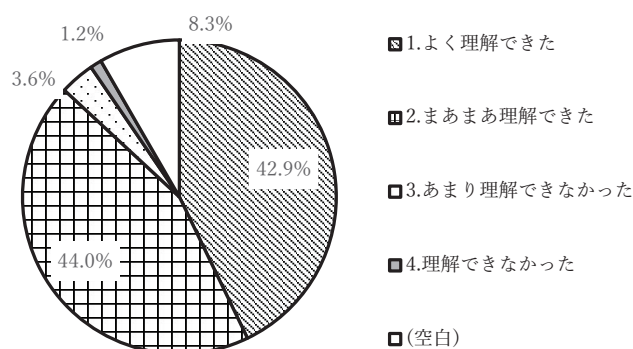


図6 看護師国家試験対策の目的は理解できましたか

2) 看護師国家試験対策のグループ学習 (図7)

「役に立った」11名 (13.1%) , 「まあまあ役に立った」38名 (45.2%) , 「あまりならなかった」19名 (22.6%) , 「役にたたなかった」13名 (3.6%) であった. 「役に立った・まあまあ役に立った」の理由は, グループメンバーとの学習が20名, 勉強するきっかけになったが5名, その他少数の意見で類似問題, 点数が上がっていたためなどがあった. 「役にたたなかった・あまり役にたたなかった」の理由は, グループ学習はしていないが18名, やらなくていいが3名などであった.

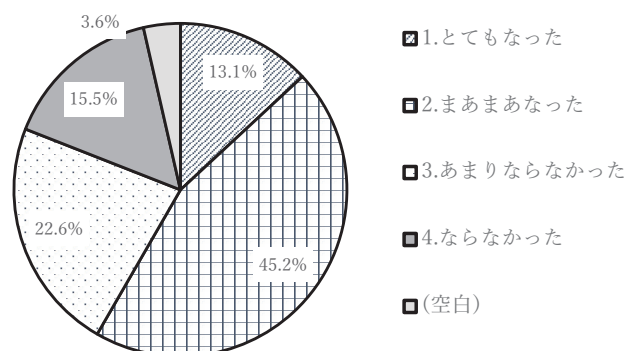


図7 看護師国家試験対策グループ学習は役にたちましたか

3) グループ発表について (表3)

「役にたった」17名 (20.2%) , 「まあまあ役にたった」43名 (51.2%) , 「役にたたなかった」11名 (13.1%) , 「あまり役にたたなかった」12名 (14.3%) であった. 「役にたった・まあまあ役にたった」の理由は, 問題が理解できたが13名, わからないところが理解できたが9名, 解説するために理解したが6名であった.

「役にたたなかった・あまり役にたたなかった」の理由では, パワーポイントがあまり見えなかったが6名, 個人でやったが3名, 資料作成に時間がかかったが2名他であった.

表3 看護師国家試験対策のグループ学習の効果

役に立った理由	人数	役に立たなかった理由	人数
グループメンバーとの学習	20	グループ学習はしていない	18
勉強するきっかけとなった	5	やらなくていい	3
類似問題	4	自分のわからないところをやった方がいい	2
点数が上がっていたため	4	問題に理解が深まらない部分も多かった。	1
わからない部分を知ることができた	3	仲良い友人に相談したため	1
分かっている問題は自由な時間が欲しかった	2	冊子に書いてある内容だから	1
友人と教えあうことで知識を深めた	1	解説が分かりやすいものとそうでないものがあった	1
一度見た問題は記憶に残る	1	グループ学習が向いていない	1
基本的な学習の効果的だった	1	オンラインでもよかったのでは	1

4) 積極的に学ぶ姿勢について (図8)

「とてもできた」14名 (16.7%) , 「まあまあできた」53名 (63.1%) , 「まあまあできなかった」11名 (13.1%) 「できなかった」6名 (7.1%) であった. その理由として, 「やる気が出た」が12件, 「国家試験の学習をするようになった」が9件, 「学力向上を図るため」が6件, 「欠席せずに授業を受けた」が6件の自由記載がみられた.

反対に「あまりできなかった・できなかった」の理由では「意味を感じない」8件, 「自分の勉強の時間の確保がしたい」「自分でやっている」等であった.

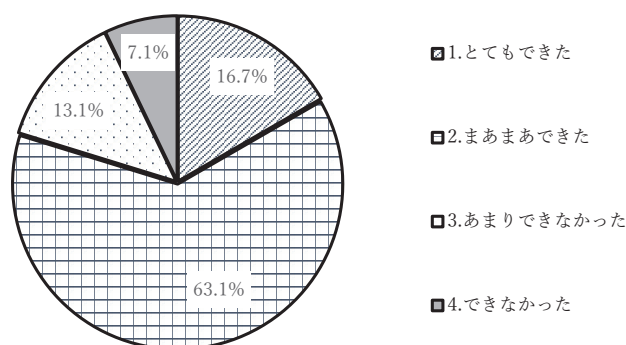


図8 積極的に学ぶ姿勢を持つことができましたか

5) グループ学習が開始されてから1日の学習時間

「増えた」30名 (35.7%) , 「変わらない」が53名 (63.1%) であった.

6) グループ学習終了後に看護師国家試験の自分自身の取り組みが明確になった学生は, 69名 (82.1%) , 明確にならなかった学生が12名 (14.3%) であった

3. グループ学習に対する学生の反応

1) 今後, 改善・工夫した方が良い点

【時間・実施方法について】 【強制ではなく自由選択があつて良いのではないか】という意見に分類された.

まず, 【時間・実施方法について】では, 「1日のスケジュールを立て, 計画的に学習進めることができた」, 「2ヶ月をかけてグループ学習をするのは長すぎるのではないか」, 「問題を解く時間にしたいほうが効果的ではないか」などの意見があった.

次に, 【強制ではなく自由選択があつて良いのではないか】では, 「全体に押し付けないでほしい」, 「グループでやるとやらない人も出てくるので自宅で学習したい」, 「強制しない方がいい, 自由参加にしてほしい」, などの意見があった. 少数であるが全体の1割の学生が否定的な意見であった.

2) グループ学習を通しての意見・感想

肯定的な意見として, 「一人ひとりが工夫をしていたため, わかりやすい内容で良かった」, 「とて

もためになった」があった。否定的な意見として、「見直しは良かったが、聞いていない人もいたり、真剣に聞いていない人もいたりやる意味があったのかと疑問に思った」、「意味ない」などの少数ではあるが意見・感想が見られた。

Ⅵ. 考察

今回、国家試験に対する学習意欲の向上のため、4年生進級当初より国家試験対策の一環としてグループ学習を導入し、その効果について考察する。

1. 国家試験対策の一環としてのグループ学習の目的について

学生のアンケートの結果から、看護師国家試験対策の目的については、「よく理解できた・まあまあ理解できた」と答えている学生が約8割であった。グループ学習実施については、自らまたは友人と話し合いながら学習計画を立案し、学習を進めていた学生が約7割いたことで、国家試験対策の目的・グループ学習の計画については、4月にガイダンスを行ったことで概ね理解していたことは示唆された。三木³⁾は、「能動的学習のための支援として早めからの意識づけのために、教員による国家試験ガイダンス（試験概略と合格率など）を実施する」と述べている。今後も国家試験対策ガイダンスについては、国家試験を受験する対象者が全員出席できる時期・時間を早期に設定し、具体的なスケジュール・実施内容についても確実に伝えるよう立案して提示し、学生が自ら行動をおこせるよう準備をし、学生が主体的に国家試験対策に取り組めるよう年間を通じて対策内容を検討していきたいと考える。

2. グループ学習の方法

グループ学習の計画は、自らまたは友人と話し合いながら学習計画を立案し、学習を進めていた学生が約6割いたこと、グループ学習のための問題作成の所要時間は、1時間以内～2時間が約8割であり、グループ学習をすることで計画的に学習進めることができたと言っている学生もいた。唐沢⁴⁾は、「グループ学習の形式をとったことで、共同作業による知識の補完や、動画作成の過程において他者に説明する作業が追加されることで、自分の理解度を認識する機会になった」と述べており、グループで学習し発表形式をとったことで肯定的意見があったと推察される。また、グループ学習をする上で、アプリ・インターネットを利用しまとめていた。このようにインターネットやソーシャルメディアとともに成長し、手軽に利用できる環境にある現代の学生に対しては、今後はICT・e-learningの活用もできるよう整備する必要がある。今後の検討としたい。

一方で「計画を立てなかった」、「グループ学習はしていない」が18名（21.4%）などの意見・感想もあり、グループ学習の具体的な方法、グルーピングについては検討の必要があることが示唆された。今回のグループ学習では、学生が担当となった問題をプレゼンテーション形式で解説を行い、その問題の類似問題を作成し、さらにその問題の解説をプレゼンテーションするという2段階で実施するという形式で実施した。グループで実施するため、ある程度学生の学習状況を把握してグルーピングにも教員は関与したが、基本的には学生の自主性や主体性を尊重するように教員は関わっていた。しかし、グループ間で話し合いに参加できない学生や意見交換ができないグループもあり、現代学生の特徴のコミュニケーション能力の低下も影響していることが考えられる。唐沢⁵⁾は、「学生の取り組みに対するモチベーションにはばらつきがあり、参加回数や意欲に反映していた様子も明らかになった。一生懸命に取り組んでいる学生からは、一部の学生への不満感も聞かれていた」と述べており、A大学の学生も同様の傾向がみられていた。グループ学習において意見を交換することで他の学生の意見や学びを聞くことで学びが深まっていくこと

など認識できない学生もいるため、このような学生も参加でき、メンバーとしての役割を理解できるように関わる必要があり、多くの学生の満足度を高めることができるよう更に関わっていく必要があると示唆された。

3. グループ学習による学習意欲

グループ学習について、看護師国家試験対策の学習の動機づけになるよう4月より開始し、約6割の学生がグループ学習は役にたったと回答していた。

グループ学習が開始されてから約4割の学生が、1日の学習時間が増加したと言っており、グループ学習後の振り返りにおいても、3割の学生がクラスルームに挙げていた発表資料を元に振り返りを行っており、6割の学生がその後の学習に利用していた。以上のことよりグループ学習は学習の動機づけの一つになったと推察される。

今後の改善・工夫した方が良い点についての自由記載において、「時間・実施方法について」では、「1日のスケジュールを立て、計画的に学習進めることができた」、「2ヶ月をかけてグループ学習をするのは長すぎるのではないか」、「問題を解く時間にしたほうが効果的ではないか」などの意見があった。「強制ではなく自由選択があって良いのではないか」では、「全体に押し付けないでほしい」、「グループでやるとやらない人も出てくるので自宅で学習したい」、「強制しない方がいい、自由参加にしてほしい」などの意見があった。

学習方法の時期や回数については、学生の発表準備ための時間などを考慮し2ヶ月をかけて実施したが、学生の意見で「2ヶ月をかけて実施するのは長すぎるのではないか」という意見もあり、時期、期間（回数）については検討の余地があることが示唆された。

また、今回のグループ学習に対して、上記のような肯定的な意見も多くあったが、「意味がない」「強制しないでほしい」などと否定的な意見もあり、学生個々の学習状況及び学習姿勢に差があったのではないかと推察できる。大日向⁶⁾は、「学習意欲と学習活動は連関する。学習効果を生み出すためには学習行動を身につけ学習意欲を引き出すような学習活動でなければならない」と述べており、自己学習能力を伸ばすことで、看護師国家試験に取り組む姿勢や取り組み方を獲得していくため、大学教育において学生の学習意欲を引き出す学習支援を低学年より実施していく必要性があり、国家試験に向かう際には、学生自身が自分の問題であるということを強く認識して臨ませることが重要である。そのため、大学教育での国家試験対策の取り組みにおいては、学生が主体的に国家試験対策に取り組む、確実に合格につなげられるようなサポートが求められると考える。

全体を通して約1割の学生が、グループ学習の目的・方法・効果について否定的であった。この学生たちの傾向までは把握できていないがどう対応するかが今後の課題となる。

Ⅶ. 結論

1. グループ学習の取り組みとして、4年生の早期にガイダンスを実施したことで、国家試験対策の目的・グループ学習の計画について、概ね理解することができた。
2. グループで話し合いをしながら進めた学生が約7割おり、グループ学習による意欲の向上が見られた。
3. グループ学習は、約6割の学生が役にたったと述べており、今後の看護師国家試験対策の学習の動機づけのきっかけづくりになった。
4. 全体を通して約1割の学生が、グループ学習の目的・方法について前向きに取り組めなかった。

謝辞

本研究をまとめるにあたり、アンケートにご協力をいただきました皆様に心から感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 安ヶ平伸枝, 菱沼典子, 大久保暢子他 (2010) 基礎看護学担当教員の捉える学生の特徴と教授学習方法の工夫. 聖路加看護学会誌. 14(2) 46-52.
- 2) 藤澤由香, 木地谷祐子, 蘇武彩加他 (2022) 本学の看護学部における看護師国家試験対策の取り組み -看護師国家試験対策内容の振り返りと学生アンケートの結果からの考察-. 岩手県立大学看護学部紀要24, 117-125.
- 3) 三木研作 (2019) 看護師国家試験合格を意識した能動的学習支援. 日本赤十字豊田看護大学紀要. 14(1) 17-26.
- 4) 唐沢博子, 板山稔, 藤田佳代子, 平井佳代 (2014) 動画配信を利用した学生主体のグループ学習 -看護学部2年次の国家試験対策の活動-. 目白大学高等教育研究. 26 23-30
- 5) 同掲書4)
- 6) 大日向輝美(2014) 誠実を胸に刻むこと,ともに未来を語ること. 看護教育. 55(6) 484-492.

2023年1月10日 受理
了徳寺大学研究紀要第17号